

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2012.12.No184

12月号

目次

会費の納入方法が変わりました！…1
技術ノート……………2
道士会の動き……………4
実行委員会報告……………5
〔青年・まちづくり〕
青年・女性の怒……………6
〔No.57 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会〕
支部だより……………7
〔北見・上富良野・後志〕
information……………8

URL <http://www.h-ab.com/>

会費の納入方法が変わりました！

(社)北海道建築士会

平成25年度より、新法人移行後の運営規則に基づき会費の取り扱いが変更になります。

会費の納入方法は、今まで支部長に納入することになっておりましたが、新法人移行に伴う行政の指導等もあり、本部へ納入するよう運営規則（下記抜粋参照）に決めました。本方式を採用するにあたり、支部とは幾度となく論議を重ね、支部事務局の事務処理の大幅な軽減等を考慮した、本部への納入方法に変更しました。会費請求・納付の流れは下記のとおりです。この方法により支部運営が影響を受けることはありません。運営費用は各支部に交付されますので、今まで通り活動が行えます。会員の皆様のご理解をお願いいたします。

【改正規則】◆一般社団法人北海道建築士会 運営規則「抜粋」

(正会員及び準会員の会費納入方法)

第21条 正会員及び準会員は、会費を振込又は現金により納入しなければならない。

- 2 前項において、会費が支部を通して現金で納入されたときは、支部長はその会員に対し、預り証を交付するものとする。
- 3 支部長は、会費が支部を通して納付されたときは、その会費を月末までに会長に送金するとともに、所定の書式により必要な事項を記して会長に報告するものとする。
- 4 会長は、第2項により支部長が預り証を発行した会員に対し領収書を送付するものとする。

平成24年まで支部から請求書が届き支部へ納められていましたが、平成25年より本部から請求書が届き本部へ納めることとなります。

(ただし、支部を経由して納めることもできます。)

*支部賛助会員は、これまでどおり支部の請求により、支部に納めてください。

◆会費請求・納付の流れ

1. 請求書の発行

○平成25年1月号の会誌に同封いたします。以降、毎年「北海道建築士 1月号」に同封いたします。

2. 納付方法

- ①請求書に記載の「本部銀行口座」へ振込し納付する。
 - ②本部へ現金を持参し納付する。(即日領収書を発行)
 - ③支部の口座へ振込し納付する。(後日、領収書が会誌に同封されます)
 - ④支部へ現金を持参し納付する。(支部で預り証を発行し、後日領収書が会誌に同封されます)
- *③④については、取扱っていない支部もありますので、事前に所属支部へお問い合わせください。

3. お振り込みの場合の注意点

本部銀行口座へお振り込みされる場合は、「ご依頼人」の氏名の前に、「会員番号」を付してお振り込み下さい。(会員番号は、請求書のお名前の下段に記載しております。)

【ご依頼人欄 記載例等】会員氏名 「建築 太郎」会員番号「1001001」の場合

- 銀行振込依頼書： 1 0 0 1 0 0 1 建築太郎
- 電信扱いの場合： 1 0 0 1 0 0 1 ケンチクタロウ

4. 平成24年度までの会費の納入先

請求のあった各支部の指定する口座へ振込か、又は支部へ現金を持参し納付してください。

フライアッシュを使用した自己修復コンクリート

地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部

北方建築総合研究所環境科学部構法材料グループ研究主任 谷口 円

1. はじめに

コンクリート構造物に生じる比較的小さなひび割れが、水分の供給を受ける環境下において自然に閉塞するいわゆる「癒着」の現象は古くから経験的に知られている。近年では、これらを積極的に制御、利用しようという取り組みが行われている。北方建築総合研究所においては、凍結融解作用等で生じる微細ひび割れを混合したフライアッシュにより長期的に修復させようとする自己修復コンクリートについて検討を行っており、ここではその概要について述べる。

2. 修復対象となるひび割れと自己修復

2.1 修復対象となるひび割れ

コンクリートはその材料特性からひび割れの発生が避けられない材料である。コンクリートは多孔体であり、大小様々な孔を持つ。これら細孔中に存在する液状水や水蒸気は外部の環境条件と平衡するよう、蒸発・乾燥し、この時乾燥収縮が生じる。収縮ひずみは様々な条件で拘束され、ひび割れる事で解放される。柱、梁など部材レベルの拘束では肉眼で確認できるひび割れを生じ、部材断面内では内外の乾燥状態により、肉眼で確認出来ない微細なひび割れを生じる場合もある。

また、凍害を受けたコンクリートも、マイクロクラックと呼ばれる数 μm ～数十 μm の微細ひび割れが発生することが知られている。

コンクリートのひび割れによる弊害のひとつとして、ひび割れを通じ、内部に様々な物質が浸透することがある。浸透する物質、量はひび割れ幅に依存し、幅が大きい場合には漏水が発生する。マイクロクラックは漏水を招くことはないが、二酸化炭素や塩化物イオン等の劣化因子が進入するには十分な幅を持ち、凍結融解作用を受けたコンクリートでは中性化が促進される。

フライアッシュを使用した自己修復コンクリートが修復することが可能なひび割れは、凍害や乾燥収縮により生じ鉄筋までのかぶりコンクリートに生じて、劣化因子の侵入を促進させるマイクロクラックとした。構造的な外力や漏水が生じるような幅のひび割れは対象としていない。

2.2 フライアッシュを使用した自己修復コンクリート

2.2.1 修復の機構とセメント、フライアッシュの反応

ひび割れの修復には、セメント系材料の再水和による機構を想定した。水セメント比は通常の範囲としたコンクリートとするため、反応の速いユーライトが大半を占める普通ポルトランドセメントでは長期にわたり未水和分を残存させることが難しい。そこで、セメント鉱物よりも反応速度の遅いフライアッシュを混和することとした。図1にセメントとフライアッシュの20℃での反応率の測定例を示す。セメントの反応に比べて、フライアッシュの反応は

遅く、182日ではセメントの9割以上が反応しているが、フライアッシュの半分が未反応で残存している。

セメント、フライアッシュの反応を自己修復機構とし、コンクリートの材料設計を可能とするには、セメントおよびフライアッシュの反応の温湿度依存性、フライアッシュの水和反応による空隙の充填性について検討し、長期間での反応予測が必要となる。そこで、温湿度条件を変えたセメント、フライアッシュの水和反応実験を行い、セメント鉱物、フライアッシュの反応速度および体積変化を検討し、拡散を律速とする式によりモデル化した。

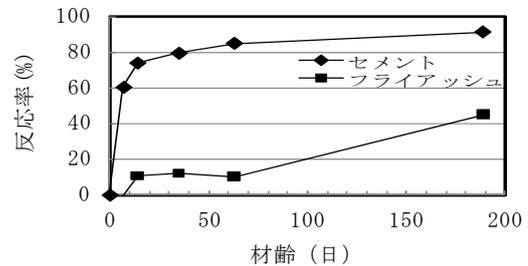


図1 セメント、フライアッシュの反応率測定例 (普通ポルトランドセメントにフライアッシュを10%混合したもの)

また、屋外環境条件でのコンクリート中の温湿度測定を行うことで、水和反応モデルと温湿度の実測値から、実環境でのセメントおよびフライアッシュの反応が予測可能となる。図2に旭川市の屋外に2004年10月から2006年10月まで2年間おかれたコンクリート内部の温湿度測定結果をもとにセメント鉱物 (ユーライト、ビーライト (以下それぞれC3S, C2S)) とフライアッシュの反応率を算定した結果を示す。実環境において、2年経過した後でも、フライアッシュの反応率は30%と算定され、未反応分が十分に残存していることがわかる。

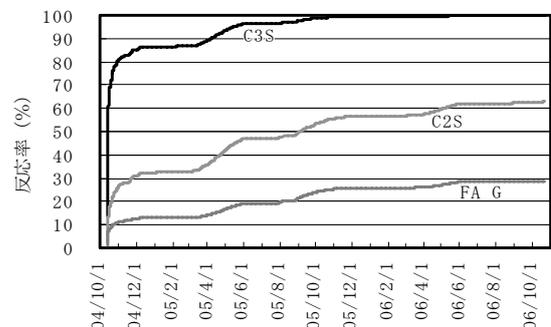


図2 実環境温湿度測定に基づくセメント鉱物とフライアッシュの反応率算定結果

2.2.2 自己修復コンクリートの調合設計

フライアッシュ混和量の決定は以下の仮定により行った。

(1) 乾燥収縮

初期材齢において長さ変化で0.1%程度の収縮が

表面に発生するものとし、体積では0.3%程度空隙を充填することを目標とする。

(2) 凍害

相対動弾性係数が60%まで低下すると、圧縮強度は約半分、長さ変化は0.1%程度の増となる。長さ変化が0.1%であれば、体積で0.3%の増加したこととなる。施工後初の冬で相対動弾性係数60%まで低下すると仮定し、次に凍結するまでにそれを修復するため、この期間に体積で0.3%の反応生成物が得られることを目標とする。

(3) 空隙の過充填

フライアッシュを大量（セメント量の30%）混合したコンクリートにおいて、フライアッシュの反応が促進される40℃養生を行うと凍結融解抵抗性が低下する場合がある（図3）。これは、フライアッシュの反応生成物により、気泡の一部が充填されたためと考えられる。そのため、過剰な空隙充填を避ける為、フライアッシュの最大混和量の目標値を調合時の水隙を最大として充填できる量とした。

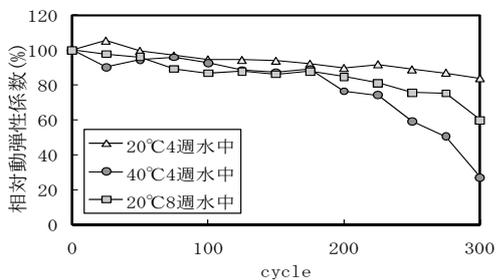


図3 フライアッシュコンクリートの促進凍結融解試験結果例

図2に示したセメント、フライアッシュの反応率推定結果から、フライアッシュのガラス質の反応率は、打設後最初の冬を過ぎ2度目の冬を迎えるまでに13.1%から25.6%へ増加する。セメント、フライアッシュの反応速度と体積変化の検討結果から、単位反応体積あたり、セメントでは2.06倍の体積増を、フライアッシュでは3.40倍の体積増をそれぞれ示す結果となった。これらの結果から、(1)~(3)を満たすフライアッシュ混和量を算定すると図4に示す通りとなる。この図から、必要なフライアッシュ置換率は水ポルトランドセメント比50から55%では10から15%、水ポルトランドセメント比55から60%では11から20%となる。これはJISR5213に規定されるフライアッシュセメントB種を用いることで、対応が可能な範囲である。

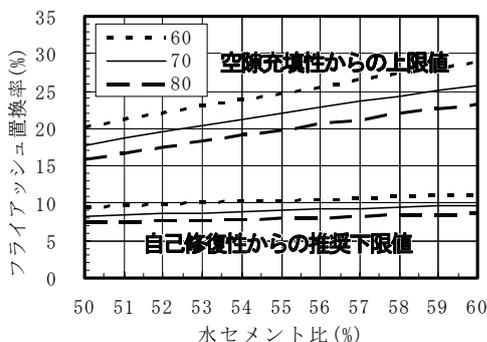


図4 フライアッシュ混入量の範囲 (混入量はセメント質量に対する割合で表し、凡例60,70,80はフライアッシュの酸不溶性ガラス質割合を示す)

3. ポテンシャルとしての自己修復性能

実環境での自己修復コンクリートの修復性能の評価には長期間が必要となるため、促進凍結融解試験により評価・検討を行った。これは、凍害ひび割れに対する自己修復性能のポテンシャルを評価するものと位置づけた。

図5に水セメント比が55%の普通セメントおよびフライアッシュセメントを使用したモルタルの、凍結融解後および再養生後の相対動弾性係数の変化を示す。フライアッシュはセメント質量の20%を細骨材に置換した。普通セメント、フライアッシュセメントのいずれも、劣化後の再養生で相対動弾性係数は回復したが、修復効果はフライアッシュセメントで高かった。

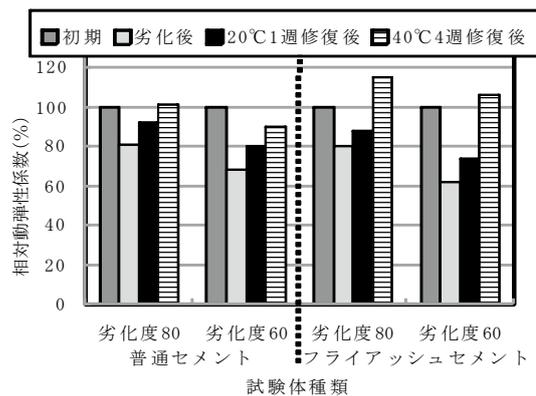


図5 普通セメントおよびフライアッシュセメントを用いたモルタルの相対動弾性係数の変化

写真1に修復前後でのコンクリートのひび割れ状態を示す。フライアッシュは細骨材体積の20%量を置換した。凍結融解作用後（劣化後）にはマトリックス部分に網目状のひび割れが認められるが、修復後には網目状のひび割れが減少したことが確認できる。

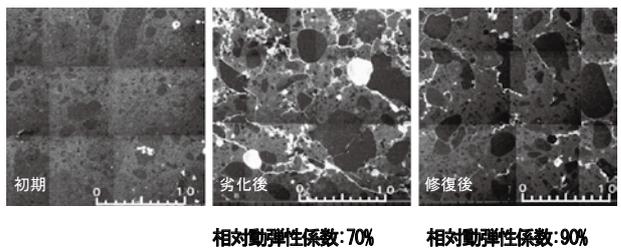


写真1 コンクリート表面のひび割れの観察

4. まとめ

本稿ではフライアッシュを使用した自己修復コンクリートについて、修復対象となるひび割れ、修復を期待する機構、調合設計手法および凍害劣化に対する修復効果について記した。促進試験で得られたコンクリートの自己修復効果は、屋外の供用環境下においても発揮され長期間にわたり期待出来ると考えられる。今後は本研究実施時に作製した暴露試験体の継続的な観察を通じ、実環境での自己修復効果を検証していく予定である。

● 自習型認定研修の設問はP.8に掲載してあります。

総会ハガキ 返信のお願い

11月にお届けしている「北海道建築士」に同封の12月14日開催「総会出欠ハガキ」は、もう返信しましたか？

欠席される場合でも、委任者を記名し忘れずに返信をお願いいたします！

道本部の主な行事予定（12月）

◆第4回運営委員会

〈開催日〉12月1日(土)

〈開催場所〉建築士会事務局会議室

◆第5回理事会

〈開催日〉12月14日(金)

〈開催場所〉ホテルポールスター札幌

◆平成24年度通常総会

〈開催日〉12月14日(金)

〈開催場所〉ホテルポールスター札幌

(社)北海道建築士会 支部統合のお知らせ

本会江別支部が9月末に、当別支部が10月末で、札幌支部と統合となりました。

当別支部統合に際して

前当別支部長

辻野 浩



この度、伝統と歴史ある(社)北海道建築士会当別支部は、札幌支部と統合することとなり、改めまして今まで会の運営に熱意と思いを寄せて活動を共にしていただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、建築士会当別支部の歴史は残念ながら古い過去の総会資料が残されておらず、私自身正確な情報を持ち合わせておりませんが、始まりは昭和37年頃と思われます。故宮永龍美様や泉亭祐永様、故小林淳一様、辻野修様、重原禅様、近藤勝弘様、井上芳一様そして私を数えると8人が歴代支部長であると承知しております。

平成13年に石狩支部当別分会から当別支部に昇格し、その頃は正準会員は50名を超えていました。

その間、様々な研修事業やボランティア活動、親睦活動を行って参りました。

全道大会ではいつもその地ならではの豪勢な料理を楽しみ、元気な他地区の会員さんと楽しく交流させていただきました。いつぞやの留萌大会は大雨で中止になったと聞きました。当別

第3回高校生の「建築甲子園」道予選

(公社)日本建築士会連合会主催の「建築甲子園」は、今年で3回目の開催になります。第1回、2回は、北海道では1校の応募しかなく、そのまま全国出場が決定。過去には、奨励賞も受賞しています。今年、なんと2校の応募がありました。審査委員会によって予選会を11月6日に開催。どちらも、すばらしく選出には困難を極めました。北海道札幌工業高等学校を代表校に決定しました。

全国選手権の結果は、12月頃決定予定。



〈応募作品〉

北海道札幌工業高等学校「北の快適住まい」

北海道旭川工業高等学校「ホームシェアリグ」

町内に於いては文化祭に建築士会のコーナーを設けたこともありました。

ボランティア活動として製作したベンチは20台以上になると思いますし、近年では親睦事業としてパークゴルフなどを行ってきました。

しかし、ピーク時の平成5年に700件を数えた当別町の確認申請数は平成23年には80弱件まで落ち込み、町内の住宅産業の地盤沈下は目を覆うものがあります。その結果、正準会員数は14名、賛助会員数は14社となり、会としては有効な活動をおこなう基盤が脆弱になってしまいました。

一方、耐震偽装に始まる設計審査の厳密化や住宅瑕疵保証制度の開始、省エネルギー住宅の普及を図る「長期優良住宅」制度等々、住宅を取り巻く社会変化は著しいものがあります。

そこで私としましては当別支部は札幌支部と合流するほうが会員減と情報不足を補うためにはベターと考えました。

多くの会員は今まで仲間同士の親睦を中心に活動してきましたので、今後とも同じ町内にいる仲間として引き続き必要に応じて自費を持って親睦を図ることができたら良いと思います。

私としましてはこの統合は発展的統合であると考えておりますので、引き続き、それぞれの場面でよろしくお願ひしたいと思ひます。

青年委員会

委員

伊井 崇史 (中標津支部)



本部青年委員になって、もうすぐ1年が経とうとしています。

はじめにオファーがあったときは、全道大会も1度くらいしか参加したことのない上にそもそも人見知りの自分が、本部の青年委員なんて、と思いましたが、元青年委員長でもある上司の勧めもあり、自分自身の成長ができればと思い、引き受けさせていただきましたことになりました。

1月に第1回目の委員会がありました。年間の事業計画を見て、どんな事業になるか楽しみだったのと同時に、自分にちゃんと青年委員としての仕事がかなせるか不安になったのを覚えています。

5月の青年建築士の集いでは、旭川駅周辺のまち歩きを通してまちづくりについて考え、その後ブロック玩具でまちなみを作るワークショップを行いました。建築士として、また、行政職員として「まちづくり」というキーワードは意識することはありますが、実際に考える機会は普段の仕事を通してあまりないと思います。このワークショップを通して、ふだん何気なく見ている街の姿について考える良い機会となりました。

また、このワークショップで初めてテーブルマネージャーを勤めました。何せ初めての経験ですから、緊張してテーブル内での進行もしどろしどろだったと思いますが、班のみなさんのおかげで、発表作品もまとめあげることができました。

7月1日の建築士の日には、前日から2日間をわたって札幌駅前通り地下歩行空間で、「建築士の日イベント」を行いました。子供たちに折り紙建築やブロック玩具で建物を作ってもらうなどして、建築士のお仕事を体験してもらい、仮想通貨を発行してお菓子等に換えてもらうと言うものでしたが、たくさんの子供たちが参加してくれました。

中には、実際に建築士に興味があるという、小学校5年生の子が、お母さんと一緒に参加してくれ、どうしたらいいのか、どんな学校に行ったらいいのか等、熱心に聞いてくれ、イベントを行ってよかったと思いました。別海から車で行ったので、土曜日の早朝4時過ぎに家を出発して、帰宅は日曜日の夜11時過ぎというなかなかハードなスケジュールでしたが、イベント自体、大成功に終わり、大変充実した2日間でした。

今年1年、青年委員として、いろんな経験をさせていただきました。今年の経験を生かし、来年も頑張りたいと思います。

まちづくり委員会

委員長

本吉 定 (小樽支部)



今年度最終の第4回委員会を10月27日(土)に開催し、来年度の事業計画・来年度事業予算等を議題に会議を行いました。

1. 委員会の開催
- | | |
|----------|-----|
| まちづくり委員会 | 年4回 |
| 小委員会 | 年3回 |

2. 高校生デザインコンクール

運営委員会 1名 選考委員会 1名 参加
今年度の結果

最優秀作品	1点	苫小牧工業高校
優秀作品	3点	小樽工業高校
		札幌工業高校
		函館工業高校
佳作	4点	札幌工業高校
		函館工業高校
		苫小牧工業高校 2点
特別賞	2点	苫小牧工業高校 2点

以上、10点が選出されました。

〈建築甲子園〉

建築甲子園は時期が「高校生デザインコンクール」とバッティングするため参加校が少ない。今年度は、2校

3. 景観整備機構

イ. 機構の組織運営等の設立に向けた準備委員会設置。

ロ. 各支部・団体に出向き、補助・支援事業等の情報提供等による整備機構の活用の提案・促進を計る。

4. 地域におけるまちづくり活動の推進

各支部における勉強会等の開催

道内各地域におけるまちづくりについての意識醸成と活動推進のきっかけづくりを行う。

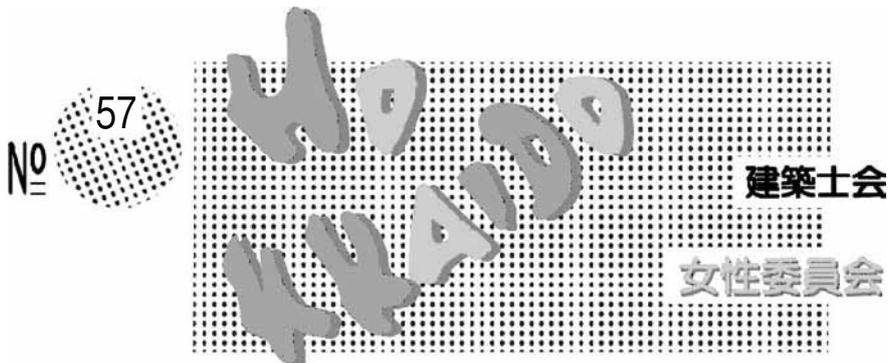
5. 平成25年度全道大会(恵庭大会)への取組

イ. 大会テーマに沿った分科会の運営を行う。

ロ. 恵庭市の特徴を特筆しパネラー選定・方向性まち歩き等を検討する。

ハ. まちづくりセミナー・地域貢献センター・各委員会の活動をパネル展示する。





(社)北海道建築士会創立60周年
第37回 (社)北海道建築士会全道
大会(函館・桧山大会) A分科会
に参加して

函館支部 岩崎 美乃

函館には特徴ある下見板張りの古い建築物が多く残っていて、住宅や店舗として建てられ、擬洋風の佇まいは現在も存在感があります。そのような建物から素材としての「木材」を取り上げ、地場産材の活用状況や古い建築の保全と修復のための工夫、維持管理の方法などを学び、過去の木材の使用方法和現在の木材の状況をつなげる事により、建物やまちを再生する道があるか探りたいというテーマに地元の私はワクワクしながら参加しました。

司会は新海直美さん、コーディネーターは金子ゆかりさん、パネラーの渡島総合振興局産業振興部林務課長喜多紀章氏より地場木材活用の2つのメリット、(株)ハルキ鈴木正樹氏より4つの杉の良さや木育マイスター、建築士会小池かおるさんより木材の使用例等、三人にお話していただきました。パネルディスカッションでは突っ込んだお話も聞けて良かったです。



道南杉を外壁に使いたいが、準不燃材の開発は？杉花粉のアレルギーは？などの具体的な質疑もありました。

道南杉を使うことにより循環型の社会を目指すというお話に共感し行政～メーカー～施工者～エンドユーザー～その仕組みが確立されることを心待ちし、私も一歩進みたいと思いました。

『全国大会【茨城】』報告

札幌支部 東 道尾

連合会女性委員会は本年度より全国女性建築士連絡協議会(以下、全建女)が隔年開催となり、今年是全国大会の交流セッションを担当することになりました。

テーマは「東日本大震災に思う、女性建築士の視点から～リスクの認識・共有・対策～」。2月の全建女に引き続き、東日本大震災を取り上げました。前半は東北3県と関東3県から「被災状況の報告」。



***岩手県** 小山田女性委員長より、「花咲プロジェクトからみえてきたことそしてこれから」：数ヶ所の仮設住宅に3回プランターの花を届け、継続した活動により顔見知りになったことなどで見えてきたことなどを報告。

***宮城県** 清本女性部会長より、「被災地視察から全国の仲間とつながる」：『この現状を見てほしい!』との思いで他県からの被災地視察受け入れに関わったことなどを報告。

***福島県** 鈴木女性委員長より、「福島の現状と除染の状況」：はかどらない除染作業の状況について報告。

***関東(茨城、栃木、千葉)** 3県を代表して千葉県 の度会女性委員長より、「東日本大震災・関東の被災状況について」：津波と液状化による被害について膨大な写真を使って報告。東北とは違った被害の様子に会場からは大きなため息がもれていました。

後半のパネルディスカッションでは茨城県の阿久津女性委員長、栃木県の秋澤女性委員長が加わり、①報告の補足 ②支援の課題 ③弱者に対する支援と福祉避難所について ④女性委員会としての支援のあり方について～6県のパネラーよりお話いただきました。

限られた時間のなかで実際の支援の様子や今後の課題など、今後も継続的に関わっていくべき道筋が見えるようなセッションになりました。当日は会場の椅子が足りなくなるほどの盛況で、200名ほどの参加者が最後まで熱心に耳を傾けてくださいました。

●来年は7月13、14日に東京で全建女が開催されます。皆様、是非ご参加ください。



北見支部

講習会の実施「都市ガスのエネルギー利用について」

支部理事(青年部会長)

越膳 総一郎



近年は震災による防災意識の高まりや節電への理解、省エネルギーへの高い関心が集まっており、テレビ広告や関連商品を取扱う量販店等において防災・エコ商品を多く目にし、知ることができる。

しかし、宣伝による情報は時として偏っている場合もあり、選択することができるエネルギーについての正しい知識や、建築条件に見合った最善の選択ができる目を養うことが大切であると考え、建築士の立場として需要家に最善の提案を行うための知識を得ることを目的に本講習会を開催した。

今回は都市ガスに焦点を当て、北海道ガス(株)北見支店 営業グループの全面協力を得て、7月27日に19名の会員が参加して行った。

講習の中では、現在、一般的に使用されている埋設管は非常に可撓性が高く地震にも強いということや、最新ガス機器には幾重もの安全機能が備わっていることなど、日常生活の中では知る機会の少ない多くの事を学ぶことができた。

今年度は初の試みで本講習会を開催したが、趣旨に沿い、目的を達成できた実感をつかめたため、今後も継続して実施して行くことで建築士としての資質の向上に努めていきたい。



上富良野支部

景観と建築

青年部長

川田 雅樹



上富良野町は、人々の暮らしと自然が調和する美しいまちです。

悠然とそびえる十勝岳のふもとに広がるまちには、春から夏にかけてラベンダーをはじめとする様々な花が咲き、その美しい景観を守り、活かしていくため、かみふらの景観づくり条例が策定されました。

まちの景観には、建築物はひとつの要素として不可欠であり、私たちが建てた建物はその場所にずっと残っていきます。

たとえば、一軒の住宅を建てるときに、外観の仕上や全体のイメージは施主の希望をかなえることはとても大事です。ただ、私たちは建築の専門家として少し離れた視点から考え、周囲の景観と調和のとれた色や素材を取り入れたデザインし提案していくことができますと思います。

そのために、日頃からまちの景観に意識を向けてみたり、建築材料や工法等についての勉強を常にしていかなければなりません。

難しい試験をクリアして建築士になって、これからまだまだ日々勉強することはたくさんあるのだなと思います。

我々も景観づくりの担い手として、それぞれの役割を果たすよう努めていくために、建築士会上富良野支部として、まちの景観のために、建築士として何ができるか、どうかかわっていくべきか考えていく必要があると思います。

後志支部

今年も!?何とか!

事務局長

高岸 利光



月日の経過は非常に早く(年のせい?)もうすぐ、支部の24年度も終りを迎えようとしています。先日、管内5支部のブロック会議があり、会議の資料を作成していて、例年とあまり変わり映えはしなかったけど、支部長他役員の方々と協力、分担して何とか行事をこなしてきたなあ!と自負しているところです。

1月の基準法講習会、総会から始まり、継続事業の倶知安型住宅研究会への参加、空家バンク事業への参加、パークゴルフコンペの開催、全道大会(8月)、応急危険度判定士後志協議会への参加や倶知安じゃが祭り(8月)、ニセコマラソン大会(9月)への屋台出店等、参加する会員の顔ぶれは10年前とあまり変わっていませんが何とか、今年も計画していた活動を終える事ができそうかな?と思っています。そうそう、代議員選挙もあったなあ!

10月9日の後志管内5支部ブロック会議も無事に終了する事ができたし。(こちら、ほとんどいつもの顔ぶれでしたが、まずはホッとしているところです)

ん?本部からメールがきてるぞ。そうだった!今年から次年の予算を10月中に編成して、役員会の承認後に本部に送らなきゃならないんだ!

青年委員会のブロック協議会も当支部主催って言うたし、当然会社の仕事もあるし、またまた日曜出勤かな?

さあ、仕事も土会も、もうひと踏ん張りして、まずは予算案を作るとしますか。

CPD認定プログラム（11月認定）

◆第46回建築基準法講習会

《日程及び会場》平成25年1月11日（金）～2月15日（金）
10：30～16：00
北海道第2水産ビル（札幌市）
他18会場

《単位数》4単位
《問合せ先》（社）北海道建築士会
TEL 011-251-6076

※詳細は、同封の講習案内をご覧ください。

◆建設工事に伴う労働災害・交通事故防止講習会

《日程及び会場》平成24年12月13日（木）
13：30～17：00
北海道建設会館

《単位数》3単位
《問合せ先》（社）日本建設業連合会北海道支部
TEL 011-261-6245



会誌「北海道建築士」 CPD単位登録のご案内

CPD自習型認定研修の設問は、下記の手順でCPD単位登録を行ってください。

- ①CPD情報システムにログインをします。
- ②士会用メニューより「認定教材研修申請」を押します。
- ③CPD番号、氏名を確認し、必要欄を入力します。
- ④プルダウンメニューから「北海道建築士」を選択します。
- ⑤設問への解答を選択します。
- ⑥入力後、「次へ」を押します。
- ⑦確認画面より「申請する」を押し、完了です。

注）不正解の場合は登録できません。

※CPD制度の参加方法等については、（社）北海道建築士会ホームページ（<http://www.h-ab.com/>）をご覧ください。

CPD 自習型認定研修の設問

P2-P3 技術ノート
（フライアッシュを使用した自己修復コンクリート）

北海道建築士 No.184

2012/12/ 1 単位：1

設問 コンクリートの自己修復に関する次の記述のうち、適切なものはどれか。

- a. コンクリートに生じる癒着現象は近年明らかになったものである
- b. フライアッシュの反応速度はセメントに比べて速い
- c. コンクリート中の微細ひび割れは、中性化の進行を促進させる

編集後記

今年も早いもので師走となりましたが、皆様にとってどんな1年だったでしょうか。振り返りますと、今年は暑～い夏で、北海道でも残暑が厳しく『寒さ』なんてすっかり忘れていましたが、やっぱり冬将軍はやって来ました。

夏以降、計画停電・節電・エコという言葉をよく耳にしますが、我々建築士にとっても、これからの建物のあり方について、改めて考える良い機会かもしれません。

来年も皆様にとって良い1年でありましように…

情報委員会 用田史門

平成24年度 建築士定期講習のご案内

平成21年度に第1回を修了された方は、今年度（平成25年3月31日迄）が更新の受講年度となります。

《受付期間》受付中～平成25年1月18日

※締切を延長する場合があります。

	開催地	開催日	講習会場
第四期	苫小牧	平成25年2月19日	苫小牧市民会館
	札幌	平成25年2月24日	かでの2・7

平成25年度 専攻建築士登録申請受付のご案内

? 専攻建築士になるには・・・（新規認定の要件）

- ・「CPD」を行っており、過去1年間（平成24年1月～12月）に12単位を取得している。
 - ・建築士資格取得後の専攻領域の実務経歴年数が5年以上ある。
 - ・「当該領域の責任ある立場での実務実績」（要第三者による証明）が3件以上ある。
- ※構造設計・法令専攻建築士は、一級建築士を要件としております。

◆専攻建築士認定申請について

《受付期間》

平成25年1月7日～1月31日（当日消印有効）

《申請書》

北海道建築士会HPよりダウンロードできます。

《申込》

申請手数料（審査手数料・登録料）の振込控えを申請書に添付して北海道建築士会へお申込みください。

◆専攻建築士更新認定申請について

平成20年3月24日・10月15日認定（有効期限 平成25年3月31日・10月31日）の専攻建築士の方が対象です。既に、対象のみなさまへは、更新申請についての案内を送付しております。

～「専攻建築士制度」とは、消費者に対して専門家として社会に責任の取りうる業務領域（専攻専門領域）を認定・登録し社会に示す制度です。

*詳細はHPをご覧ください。（<http://www.h-ab.com/>）

情報委員会委員長／岡田 隆
副委員長／三浦 浩・天城 秀典・神田 光英
委員／森田ゆう子・岡田 光弘・山下 聡
用田 史門・高松 徹・道塚 勉

北海道建築士 No.184号

印刷 平成24年11月／発行 平成24年12月

編集・発行 社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番